

ほつ スピタル・かいづか

人間の体は使わなければどんどん衰えていきます。何らかの理由で絶対安静を強いられた場合、筋力は1日1~2%ずつ低下し、筋肉の量も1日1%程度少なくなっていく(筋萎縮)と言われております。特に立ったり歩いたりするのに必要な体幹や下肢の体を支える筋の低下が著しいとされています。

このように体を動かさないこと(不活動や寝たきり)によって起こる障害を「廃用症候群(はいようしょうこうぐん)」と言います。これは、筋の萎縮・骨量の減少・関節が硬くなるなどの運動器の障害にとどまらず循環や呼吸機能、精神・認知機能の低下など全身の機能の低下をも

⑭リハビリテーション科

問合せ先 貝塚病院 ☎422-5865

たらしめます。

入院治療においては多かれ少なかれ、廃用症候群に陥る危険があります。特に高齢者や元々体力の低下したかたでは、安静後・術後、立てない・歩けないといった状態に陥ってしまうことがあります。

リハビリテーション科では、疾患を問わず主治医・看護師などと連携し、早期離床を行い廃用症候群を予防して、入院患者のみなさんが、元の生活を行える状態で早期に退院できるよう努めています。

リハビリテーション科 技師長 中林和昭